

## 第3部 全体討議

全体討議では、各グループが課題テーマについての討議内容を発表し、参加者全員で意見を交換しました。

コーディネーターは、**兵庫大学経済情報学部 瀧本眞一教授**です。コメンテーターは、**特定非営利活動法人NPO政策研究所 相川康子専務理事、井戸敏三兵庫県知事**です。

参加者からは、「定年退職した男性を地域へ引っ張り出すことが必要」「世代間のふれあいが希薄であるため、行事を通して世代間の交流を深め、若者の意識を高めることが必要」「地域の自然や文化を知るために、子どもの時から自然に触れる体験学習を増やすことやマップづくりを通して、身近な自然や歴史などを拾い出していくことが必要」「長年培った体験を次世代へ伝えたいという熱い思いを持ったベテランをうまく活用する仕組みやコーディネーターが必要」「行政、地域、大学等の参加によるアンテナショップを設置して、若い子にチャレンジさせる」など様々な発言がありました。

参加者からの意見に、コメンテーターの皆様からいただいた主なコメントは次のとおりです。

### 相川コメンテーター



東日本大震災の被災地では、仮設住宅のひきこもりが問題となっている。女性はふれあい喫茶等へ行くが、男性は行かない。男性は企業人である間に、つながりをつくる方法を身につけることが必要。

自治会における世代間交流は、ずっと住んでいる子どものみならず、定住ではなくても、3年でも地域にいてくれる人たちとの交流に軸を移すことは、いいかもしれない。

マップづくりは、地域にあまり縁がなかった人でも、積極的に関わることができる。イラストが得意な人などは書き込むことができるので、非常にいい取組。

人件費を払って、コーディネーターを雇うのか、対価を得て、地域のソーシャルビジネスとしてやるのか、ゴールや展開方法を考えながら、地域づくり活動をデザインしていくことが大事。

### 瀧本コーディネーター

ビジョンの実現に向けた取り組みについては、コーディネートできる人を地域外からでも探して、事業化に向けた動きを一緒に考えていきたい。

アンテナショップは、行政を巻き込んで考え、今あるものに東播磨コーナーを作ることによって対外的な発信をすることが可能ではないか。

地域には意外と気がつかないことがあり、マップを作ることにより、住んでいる人も後から入ってくる人も、その魅力に気づき、感じることで、地域に誇りと愛着を持つ人が増えていくのではないか。



### 井戸コメンテーター



あいさつは大切なこと。顔見知りになるきっかけづくりとなる。あいさつ・声かけ運動をしているところに、泥棒は来ない。地域づくりの原点はあいさつであると思う。

地域への愛着が少ないのは、地域の風土と文化に対する関心がないのではなく、知識が少ない、知らされていないということに関わってくるかもしれない。

世代間については、ボーイスカウトやガールスカウトのような世代間秩序を使って、小学生は中学生が教える、中学生は高校生が教える、大学生は大人が教える、こういう世代間のシステムをまちの中につくっていく努力をしていただきたい。

※夢会議の詳しい内容については、ホームページをご覧ください。「平成24年度東播磨地域夢会議」と検索すれば、主な発言をご覧いただけます。

※夢会議の詳しい内容については、ホームページをご覧ください。「平成24年度東播磨地域夢会議」と検索すれば、主な発言をご覧いただけます。

